

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：12614

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02494

研究課題名(和文) 博物学の中の文学 経験的事実と文学の関係

研究課題名(英文) Literary Elements in Natural History: the Relationship between Empirical Facts and Literature

研究代表者

日臺 晴子(Hidai, Haruko)

東京海洋大学・学術研究院・教授

研究者番号：40323852

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：17世紀から19世紀までの博物学の歴史を振り返り、自然を対象とする学問において文学的表現を巡る様々な態度を見出すことができた。実験が革新的な方法として登場した17世紀には、文学的表現や想像力を排除する方向性が見られたが、John Rayの一般読者を想定した著作には自然現象の説明に比喩表現が使用されていることが明らかになった。18世紀ではGilbert Whiteが書簡体の特徴を生かし、より身近に自然を捉え、読者にも親近感を持って自然を理解する表現の工夫が見られ、19世紀ではCharles Kingsleyによって、科学的思考に歴史観を取り込む努力が見られることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、日々理系の学生に英文学を教える中で、想像力や虚構の意義についてどのように理解を深めてもらえるかという問題に直面したところから始まった。数量データによって自然を理解する道以外にも、虚構に依拠することによってより理解が深まることもあるということが本研究によって明らかになった。近年サイエンス・コミュニケーションが盛んになっていることもあり、いかに自然を理解するかという側面において、本研究の成果を生かすことができるのではないかと思われる。

研究成果の概要(英文)：This research found that some studies of natural history from the 17th century to the 19th century showed a variety of attitudes toward literary expressions. With the rise of experimental techniques in the 17th century, the natural historians demonstrated a tendency to eliminate literary expressions and intervention of imagination. However, it was made clear that some works of John Ray, for example, included figurative expressions to explain natural phenomena. The research also showed that both Gilbert White in the 18th century and Charles Kingsley in the 19th century relied on literary expressions and historical explanations to help lay readers understand the mechanism of fauna and flora.

研究分野：英文学

キーワード：博物学 文学的表現 想像力

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年私は、近代科学、自然環境などの視点からの研究を行う一方、教育においては、日々多くの理系の学生を対象に英文学の授業を行っている。その中で、理系の学生たちの文学研究の意義に対する理解度の低さや、極端に即物的な作品解釈などを目の当たりにし、当惑することが少なくない。本研究の着想は、近代科学が突きつける「実証された事実」の優位性の前に、博物学者たちが著作を通して示す逡巡を明らかにすることにより、間接的にはあるが、理系の学生たちに、「事実」と想像や虚構が混ざり合うことによって、自然をより深く理解する可能性があることを伝える手がかりを掴みたいと考えたことが当研究の背景にある。

2. 研究の目的

博物学は、17世紀の所謂科学革命以降、自然神学に則った体系化からその基軸を実験・実証へとシフトし、近代生物学へと取り込まれていった。この過程の中で博物学者たちは自然をどのように記述し、考察してきたのか。博物学において文学が果たした役割は少なからずあったと考えられることから、本研究では、イギリスにおける博物学の勃興から19世紀後半の衰退までの変遷を、博物学者たちの文学への依拠の仕方を通して捉え、近代科学が排除することとなった文学的要素の意義を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

John Ray、Gilbert White、Charles Kingsleyら博物学者を取り巻く専門的文脈の研究として、17世紀から19世紀までの王立協会および影響力の大きかった学者たちの研究方針や理念など、特に文学に関係する部分について、科学史研究などを参考に整理し、検証する。その後、一次文献に戻り、王立協会の方針などが各々の博物学者の著作にどのような影響を及ぼしているかを分析し、それらの著作物における文学的表現について考察する。

4. 研究成果

2017年度は17世紀に至るまでの自然哲学史を把握し、設立当初の王立協会メンバーの研究動向をおさえることにはかなりの時間がかかったため、収集した資料の分析に取り掛かるのが遅くなった。Rayの著作に立ち戻り、分析結果をまとめるまで至らなかったが、2018年度の研究の中に、17年度に得た王立協会が発行する*Philosophical Transactions*誌における文学的表現の分析を生かすことができた。その2018年度の研究では、Gilbert Whiteの著作*The Natural History and Antiquities of Selborne*が採る書簡体形式が、植物と動物、生物と人間などを繋ぐネットワーク的想像力の発露の場として適切なものであったことを論文「手紙とエコロジー——『セルボーンの博物誌及び歴史的遺産』におけるネットワークの想像力」(『エコクリティシズム・レビュー』No.12)において明らかにした。Whiteがこの作品を書くきっかけとなった論文が掲載された*Philosophical Transactions*での書簡体形式論文の受容状況やその特徴について資料を調査し、書簡体をめぐる18世紀の社会、文化および自然科学界の文脈を辿った結果、専門家集団などとの繋がりに書簡体の価値が見出されていたこと、当該作品は種類の異なる話題や議論を包含する書簡体という柔軟性のある媒体によって、複数の観察報告がゆるやかな繋がりを持つような効果を上げること成功していることが明らかになった。また、Whiteが執着した書簡体形式は、図鑑的に博物学誌を書く18世紀の博物学研究の主流に対するカウンター・ナラティブとしても

とらえられるという考察に至った。

2019 年度は、Charles Kingsley が Chester に設立した Chester Society of Natural Science, Literature and Art での活動において、自然を対象とした学問が博物学と近代科学とに分岐してゆく時代の流れの中で、彼自身が科学と想像力の関係性をどのように考え、それを如何に創作活動や社会活動へと昇華させていたかを捉えようとした。高度化してゆく科学に対して、彼自身は博物学との連携や科学の歴史化や文化の取り込み等の必要性を感じていたことが、Chester Society の議事録や Kingsley の講演等から明らかになった。

また、当初予定していた Kingsley の博物学的著作における文学的要素の意義の研究とは異なるが、17 世紀から 19 世紀までの科学の歴史の流れを追う中で、人間と物質との関係および人間が物質に向ける想像力という問題に行き着いた。人間と物質を関係づける想像力が、生命とは何かという根源的な問いに対する科学的探究と関わっていることから、生氣論や物活論が文学作品にどのように影響を与えているのかを考察した。その際、物質の存在感を顕在化させるゴシック小説に焦点を絞り、作品が書かれた時代の科学的知見に影響された物質に対する想像力が、人間と物質との境界または境界の曖昧さを描出することに寄与していることを論文「モノ語るゴシック 『オトランド城』と『ドリアン・グレイの肖像』に見る物質性」(共著本『幻想と怪奇の英文学 IV』、2020 年 8 月出版予定)において明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 日臺晴子	4. 巻 12
2. 論文標題 手紙とエコロジー 『セルボーンの博物誌及び歴史的遺産』におけるネットワークの想像力	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エコクリティシズム・レビュー	6. 最初と最後の頁 61-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 上岡 克己、伊藤 詔子、塩田 弘、大野 美砂、藤江 啓子、浅井 千晶、松永 京子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 音羽書房鶴見書店	5. 総ページ数 436
3. 書名 エコクリティシズムの波を超えて：人新世の地球を生きる（掲載論文「ポストヒューマン・ファルスとして読む『真面目が肝心』」日臺晴子 231-245頁）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----